



開学 100 周年に向けて

**生涯学びを楽しむ**

Enjoy Learning for Life

---

# 2016 年度 事業報告書

---

学校法人 名城大学

目 次

トップメッセージ	1
第1章 MS-26に基づく2016年度の事業計画に対する結果	2
I 2016年度以降の優先課題の進捗状況	
II 主な事業の結果	
III 事業ごとの主な支出状況	
第2章 法人	16
I 立学の精神	
II 沿革	
III 役員・評議員等の構成	
IV 教職員数	
V 所在地	
VI 学校法人名城大学の基本戦略の推進	
第3章 設置学校	18
I 大学	
II 附属高等学校	
III 2016年度の状況	
IV 財務の概要	
参考資料	24
用語集	

## トップメッセージ



理事長 小笠原日出男

## 「生涯学びを楽しむ

(Enjoy Learning for Life)」

学校法人名城大学は、1926（大正 15）年に開設の名古屋高等理工科講習所を礎として、2016（平成 28）年には開学 90 周年を迎えました。本学では、これまでの歴史の中で、1967(昭和 42)年 3 月に宣言された立学の精神「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」を普遍的理念と位置付け、この理念は、学生、生徒、教職員の心に根付き、今日まで受け継がれています。

2005（平成 17）年度からは、2015（平成 27）年までに実現すべき戦略プランとして策定した「MS-15（Meijo Strategy-2015）」に基づき、様々な事業展開を図った結果、志願者数の増加や就職率の向上など、目に見える形で成果が出てきております。

2015 年度からは、これまでの基本戦略「MS-15」を継承し、開学 100 周年の 2026 年を目標年とする新たな戦略プラン「MS-26（Meijo Strategy-2026）」が始動しました。「MS-26」では、本学の創設から今日まで築きあげてきた“学び”にこめる志と精神を「生涯学びを楽しむ（Enjoy Learning for Life）」という言葉に託し、私たちが最も大切にする価値観として掲げました。この価値観の共有のもと、2026 年に目指す将来像として、大学においては「多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる」ことを、附属高等学校においては「『多様な経験』を創り出す『挑戦する学校』」を目指すことを掲げております。

開学 90 周年にあたり、「MS-26」開始 2 年目となった 2016（平成 28）年度を振り返ると、「キャンパスから地域へ、キャンパスから世界へ」のコンセプトのもと、新たな創造型キャンパスを目指すナゴヤドーム前キャンパス・外国語学部開設など、節目の事業が形となったことが挙げられます。

教育分野では、「学びのコミュニティ」創出の一環として取り組まれている「学びのコミュニティ創出事業」「Enjoy Learning プロジェクト」において、本学学生・生徒が活発に活動し、その様子を学内外に発信しています。

研究分野においては、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に「青色 LED を起点とした新規光デバイス開発による名城大ブランド構築プログラム」が選定され、産業をけん引するシーズを生み出す研究機関として、研究成果を世に出していくことも、社会から期待されたところでありました。加えて、愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科の管理法人として指定されたことなどを踏まえると、本学の「教育研究」について、社会から評価され期待された年であったと言えます。

2014（平成 26）年 11 月から 2016（平成 28）年度末まで展開しておりました「学校法人名城大学開学 90 周年募金」に対しては、経済環境の厳しい折、募金の趣旨にご賛同いただきました多くの皆様から、多大なるご寄附を賜り厚く御礼申し上げます。

これからの中等・高等教育を取り巻く環境は、高大接続システム改革など、各教育機関に対して、教育の在り方自体を根本から見直すことが強く求められており、学齢人口減少とあいまって、これまで以上に他の教育機関との競争が激化するものと考えられます。

開学 100 周年を見据え、「MS-26」を軸とした様々な改革を着実に進め、学生・生徒が本学を卒業して良かったと思える学校づくりを目指して取り組んでまいりますので、引き続きのご支援と格別のご協力をお願いいたします。

2017（平成 29）年 5 月

## 第1章 MS-26に基づく2016年度の事業計画に対する結果

本学が掲げる価値観「生涯学びを楽しむ」を踏まえ、2016年度は次のテーマを重要課題として優先的に取り組んできました。

### ■開学100周年（2026年）をマイルストーンとするビジョン

（名城大学）

多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

（名城大学附属高等学校）

「多様な経験」を創り出す「挑戦する学校」

## I 2016年度以降の優先課題の進捗状況

### 1. 名城大学における全学的優先課題

#### （1）アドミッションポリシーに基づく学生の確保

○安定的な志願者（学部）の確保（2017年度入試志願者 41,602名）

#### （2）能動的学修を支えるFDの促進

○FDフォーラム「高大接続改革の狙いと方向性」を開催

○FD学習会「多人数でのアクティブ・ラーニング～ヒントとしての『橋本メソッド』～」を開催

#### （3）アクティブ・ラーニング型学修の推進

○「学びのコミュニティ創出支援事業」として新たに29件を採択

#### （4）多様な専門性に根差したグローバル人材の養成

○海外の大学との共同プログラムとして学部88件、大学院20件実施

○英語圏における交換留学先の拡充とキャンパスの国際化を目的とした短期受入れプログラム「名城大学サマースクール2016」を開催

#### （5）課外活動における多様な経験の促進

○学生の多様な経験促進を目的とした事業「Enjoy Learning プロジェクト」を開始、12件を採択

○学生の「学び」の共有を目的としたプレゼンテーションイベント「RISING AWARD」を開催（応募総数57組から7組を最終発表者として選出）

#### （6）国際的研究拠点づくり

○青色LEDの技術の発展を目指す研究拠点として「光デバイス研究センター」を設置

### 2. 名城大学附属高等学校における優先課題

#### （1）教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保

○志願者数15年連続愛知県下No.1（2017年度志願者7,535名）

#### （2）「突破力」を育む授業方法の開発と共有

○研究授業の実施、教員研修の充実、他校との人的交流等による授業方法の開発及び共有

#### （3）生徒の多様化に対応した学習・生徒指導の充実

○総合的なカウンセリングの充実（早期対応の支援体制強化、カウンセリング委員会の開催等）

#### (4) キャリア教育プログラムの開発

- 学年別及びコース別におけるキャリア教育プログラムの開発及び実施  
(講座制補習、他大学との意見交換会、企業役員による講話、地域施設での体験型授業等)

#### (5) 探求型学習プログラムの開発

- 企業探究プログラム、多文化共生プログラム、社会課題探究プログラム等の開発及び実施
- 次世代リーダー育成及びアクティブ・ラーニングの推進

#### (6) 国際化の推進

- 国際クラスにおける国際化プログラムの実施 (SSH、SGH における海外研修や海外フィールドワークの実施や海外からの来校)

## II 主な事業の結果

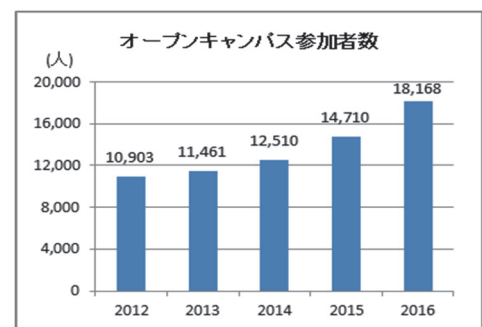
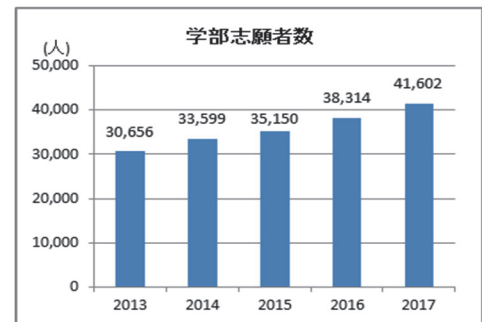
### 【人材の確保と育成】の分野

《大学》

#### 1. 優秀な学生の確保

##### (1) アドミッションポリシーに基づく学生の確保

- ・2017年度入学試験(学部)において、41,602名の志願者を確保。
- ・ナゴヤドーム前キャンパスで初めてオープンキャンパスを開催。過去最高の18,168名(天白キャンパス:13,061名、八事キャンパス:1,735名、ナゴヤドーム前キャンパス:3,372名)が参加。大学・学部紹介、入試対策講座等に加え、女子学生限定「Girl's cafe」や保護者限定「OYA cafe」を開催。
- ・株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した、高校3年生が選ぶ「志願したい大学」ランキングにおいて、東海エリア2位を獲得。
- ・一般財団法人日本語教育振興協会日本語学校教育研究大会主催の留学生に勧めたい進学先「日本留学 AWARDS2016」で私立大学理工学系部門2年連続入賞。
- ・在学生205名が母校を訪問し、高校教員に自身の経験に基づく本学の情報を伝達。



#### 2. 優れた教職員の確保と育成

##### (1) 高い教育力・研究力を持つ教育職員の確保

- ・大学として求める教員像及び教員組織編成方針を策定。
- ・女性教職員がその能力を最大限発揮し、より活躍できる環境を構築するための「女性活躍推進法に基づく行動計画」を策定。

##### (2) 専門性を持つ優れた事務職員の確保

- ・契約事務職員24名(内、専門職7名)を採用。
- ・業務職11名を採用。

(3) 能動的学修を支える FD の促進

- ・第 18 回 FD フォーラム「高大接続改革の狙いと方向性」を開催し、139 名が参加。能動的学修に係る参加者の満足度は 92.8%。
- ・学生による授業改善アンケートの WEB 化により回答データを教員及び学部提供。対象科目実施率は前期：98.1%、後期：99.9%。
- ・第 4 回 FD 学習会「多人数でのアクティブ・ラーニング～ヒントとしての『橋本メソッド』～」を開催。他大学からの参加者含め 51 名が参加。
- ・新任教職員向けの FD 活動説明会を初めて実施し、43 名の新任教職員が参加。

(4) 教職協働事業を支える SD の促進

- ・総務部主催の集合研修、他部署との連携型研修を実施。  
 (管理職研修) 労務知識及び労務管理研修、考課者研修、職場改善やメンタルヘルスケアを目的としたラインケア研修、部署での課題解決を目的とした課題発見力・実行力養成研修を実施。  
 「2016 年度 戦略セミナー MS-26 戦略プランの具体化・行動化に向けて」を実施。
- (一般職研修) プロジェクト型研修(問題発見・解決思考力、企画・立案スキル)、予算・決算研修、文書処理研修、セルフケア研修、情報セキュリティー・マイナンバー取り扱い研修を実施。
- (若手職員研修) 新入職員研修、企画・提案・プレゼン研修、マナー研修を実施。
- (目的別研修) 国際化に向けて、ALA 米国図書館研修へ 1 名派遣。  
 ICT 活用についての基礎的理解を深めるため、大学職員情報化研究講習会へ若手職員を 4 名派遣。

《附属高等学校》

1. 優秀な生徒の確保

(1) 教育目的・方針に基づく優れた生徒の確保

- ・志願者数 15 年連続愛知県下 No.1 (2017 年度志願者 7,535 名)。
- ・公開見学会を 10、11 月の 2 回開催し、合計 5,000 名以上が来訪。
- ・中学校 24 校で進学説明会を開催。
- ・SS 及び国際クラスにおける優秀な生徒確保。
- ・生徒(国際クラス)の資格取得の支援充実。
  - 英語検定試験取得率(準 1 級) 3 年 19.4%、2 年 16.2%、1 年 3.0%
  - 英語検定試験取得率(2 級) 3 年 94.4%、2 年 91.9%、1 年 72.7%
  - TOEIC 平均点 3 年 670.0 点、2 年 527.7 点、1 年 398.6 点

(2) 中学校との接続強化

- ・中学生の本校訪問受入れ強化(本校への中学生見学者が 37 校、492 名)。

(3) 学習塾等の関係団体との連携強化

- ・学習塾関係者を対象に学校説明会を開催(学習塾等への入試相談会時)。
- ・学習塾等の入試相談会に 6 カ所参加、パンフレットを 18,652 部以上配布。

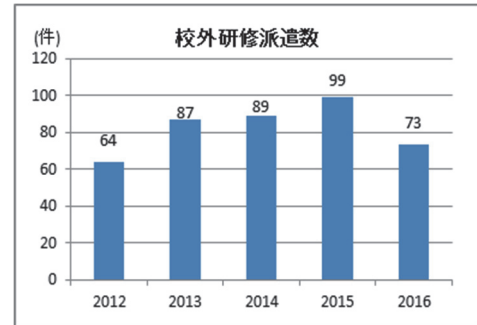
## 2. 優れた教育職員の確保と育成

### (1) 専門性をもった教育職員の確保

- ・新規教諭の採用（3名（特任教諭1名を含む）を採用し、専任率 85.3%）。

### (2) 「突破力」を育む授業方法の開発と共有

- ・研究授業については、数学と理科において実施。
- ・他校との人的交流として、日本体育大学系列高校と部活動の相互訪問を実施。
- ・管理職主催教員研修を1回実施し、附属高校について SWOT 分析を行い、具体的な方策について検討（参加者 89名）。
- ・教育開発部を中心とした希望者による教員研修会を4回実施（参加者延べ 128名）。
- ・教員を校外研修へ積極的派遣（73回）。
- ・数学科と英語科が連携を取り、「和算」についての授業をすべて英語で実施。
- ・研究授業を3回、公開授業を50回実施。



## 【教育の充実】の分野

《大学》

### 1. 学生の多様な経験による主体的な学びの促進

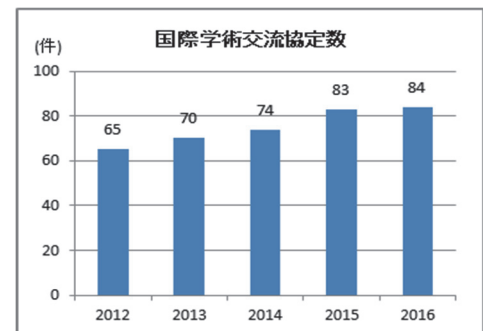
- ・外国語学部国際英語学科を開設。
- ・本学の教育理念や社会的ニーズを踏まえ、育成すべき人材像を明確にし、その資質・能力獲得のために適切な教育課程編成、体系的・組織的な教育活動、及びこれにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜の実施を目的に、大学全体・各学科の3ポリシー（DP、CP、AP）を策定。
- ・入試制度改革を目的とした「高大接続WG」を設置。
- ・農学部が岐阜大学応用生物科学部と教育連携に関する協定を締結。
- ・農学部が農林水産省東海農政局との連携に関する覚書を締結。

#### (1) アクティブ・ラーニング型学修の推進

- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」として新たに29件を採択（2015年度からの継続事業と合わせ全59件）。
- ・授業科目ごとにアクティブ・ラーニング導入状況を調査（回答率約90%）。96.1%の科目でアクティブ・ラーニングが導入されていることを確認。
- ・卒業時アンケート等、教育の質保証に向けた調査を実施。

#### (2) 多様な専門性に根差したグローバル人材の養成

- ・新たに河北工業大学、輔仁大学法律学院、南京工業大学浦江学院と協定を締結（学術交流協定数計84大学・機関）。
- ・海外英語研修として18プログラム実施。
- ・海外の大学との共同プログラムとして、学部88件、大学院20件実施。
- ・国外派遣人数723名（昨年度より77名増加）。



- ・天白キャンパス、ナゴヤドーム前キャンパスにグローバルプラザを設置し、延べ 11,775 名が利用。
- ・英語圏における交換留学先の拡充とキャンパスの国際化を目的とした短期受入れプログラム「名城大学サマースクール 2016」を開催。アメリカ、中国、オーストラリア、マレーシアの 6 校から 19 名の学生が参加。
- ・外国語学部が香港教育大学と遠隔授業を実施。
- ・モスクワ大学ビジネススクール学生と本学修士学生の学生交流会を開催。
- ・セカチカセミナー（世界に近づくきっかけとなるセミナー）を開催し、学生 44 名が参加。
- ・外国語学部 1 年生が東区のまち歩きイベント「歩こう！文化のみち」に外国人観光客向けの英語ガイドボランティアとして参加。

## 2. 大学院教育・研究の質保証

### (1) 高度専門職業人養成に向けた教育プログラム開発

- ・教学将来構想検討部会において、大学院教育の実質化に向けて体系的・組織的な教育を実現するため、幅広いコースワークから研究指導への有機的繋がりを可能とする教育課程について検討。これを受け、各研究科においても検討、カリキュラム改正が進んだ。
- ・「大学院生研究助成」「国際的調査・研究助成」として修士課程 48 名、博士後期課程 10 名に総額 9,151 千円支援。

## 3. 学修・課外活動・学生生活支援サービスの充実

### (1) 課外活動における多様な経験の促進

- ・学生の多様な経験促進を目的とした「Enjoy Learning プロジェクト」における活動企画を募集。23 件の応募があり 12 件を採択。
- ・学生が得た「学び」を共有することを目的としたプレゼンテーションイベント「RISING AWARD」を開催。応募総数 57 組から 7 組を最終発表者として選出。
- ・学長表彰を実施（優秀表彰・団体：3 件、優秀表彰・個人：5 件、奨励表彰・団体：14 件、奨励表彰・個人：13 件、ボランティア活動・個人：10 件、難関資格試験合格者：16 件、就職サポーター：4 件、スチューデントアシスタント：6 名、TOEIC 高得点者：17 名、実用英語技能検定準 1 級合格者：1 名、大学祭の優秀学術企画：2 件、その他活動：35 件）。
- ・学習サポートルームの相談員として大学院生を雇用し、全学部学生を対象とした学習指導を実施。ナゴヤドーム前キャンパスにも開設。
- ・準強化クラブとして新たに剣道部を承認（2017 年度から適用）。

### [課外活動の主な成績]

- ・女子駅伝部が第 34 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において 3 位。2016 全日本大学女子選抜駅伝競走において準優勝。
- ・洋弓部が第 51 回全日本学生アーチェリー女子王座決定戦において女子団体戦 4 位。
- ・エコノパワークラブが本田宗一郎杯 Honda エコマイレージチャレンジ 2016 第 36 回全国大会において準優勝。
- ・アメリカンフットボール部が 2016 年度東海学生アメリカンフットボール秋季リーグ戦において優勝。

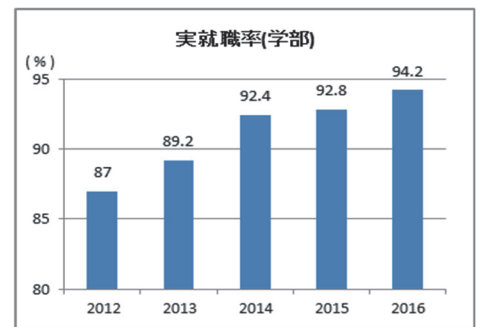


全日本大学アメリカンフットボール選手権においてベスト6。

- ・ 応援団チアリーディング部が第21回中部チアリーディング選手権大会において4位。
- ・ 硬式野球部が第12回愛知・北陸・東海地区三連盟大学野球王座決定戦において優勝。22年ぶりに明治神宮野球大会に出場。
- ・ 柔道部が第63回東海学生柔道夏季優勝大会において男子団体準優勝。
- ・ 準硬式野球部が東海地区大学準硬式野球平成28年度秋季リーグ戦において4位。
- ・ 軟式野球部が平成28年度東海学生軟式野球連盟決勝リーグにおいて4位。
- ・ 日本拳法部が第56回中部日本学生拳法選手権大会において団体戦3位。
- ・ バレーボール部が第141回東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会、第142回同秋季大会において準優勝。
- ・ ハンドボール部が平成28年度東海学生ハンドボール春季リーグ戦において準優勝。
- ・ ライフル射撃部が第63回全日本学生ライフル射撃選手権大会（10mエアライフル立射60発競技）において団体戦7位。
- ・ ラグビー部が東海ラグビーリーグ決勝リーグにおいて3位。
- ・ 将棋部が第47回学生王座戦において団体戦5位。
- ・ 薬学部ソフトテニス部が2016年度全日本薬学生ソフトテニス大会において女子団体戦3位。
- ・ 薬学部卓球部が第59回全日本薬学生卓球大会において女子団体準優勝。
- ・ 弓道部が第64回全日本学生弓道選手権大会において女子個人戦準優勝。
- ・ 山岳部がIFSCクライミング世界ユース選手権2016においてジュニア男子7位。

(2) 学修・学生生活に関する支援体制の整備

- ・ 2017年度推薦合格者入学前オリエンテーションを開催し、642名が参加。
- ・ 2017年度推薦入学予定者を対象に入学前学習プログラム（MECプログラム）のスクーリングを開催し、579名が受講。
- ・ 大学での学びの基礎となる高校までの学習内容の学び直しを目的とした「名城サプリメント教育」を実施（全6科目、94コマ）。
- ・ 第102回薬剤師国家試験において合格率が90.4%、全国の私立大学中3位（既卒者を含む）。6年制課程新卒者合格率は97.6%、2位。
- ・ 各種進路支援行事を通じた対応の結果、実就職率（学部）94.2%を確保。
- ・ 324の企業から511名の採用担当者を招き、就職担当教職員との情報交換会を開催し、130名の教職員が参加。
- ・ 「理工系女子学生キャリアアップセミナー」を開催し、47名が参加。
- ・ ナゴヤドーム前キャンパスで「名城キャビンアテンダントプログラム～エアライン就職サポート～（M-CAP）」を開始。
- ・ 教員志望学生を対象に、勉強会、ガイダンス、試験対策講座、上級生による報告会、交流会を開催し、2016年度公立学校教員採用試験において47名（内、現役26名）が合格。
- ・ 校友会の援助により、学生の食習慣の改善、授業出席率の向上、朝食を通じた学生同士のつながり



づくりを目的とした「100円朝食」を実施。

- ・2016年4月よりすべてのキャンパスで全面禁煙を開始。
- ・赤崎教授からのご寄附をもとに「ノーベル賞受賞記念赤崎奨学金」を創設。2018年度大学院入学者を対象に募集。

(3) ICTの活用による学修支援

- ・授業改善アンケートのWEB化を実現。

《附属高等学校》

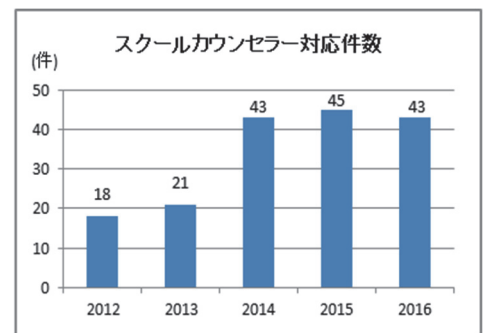
1. 学習・生活指導の充実

(1) 生徒の多様化に対応した学習・生活指導の充実に向けた取り組みを支援する

- ・総合的なカウンセリングの充実（早期対応の支援体制強化、カウンセリング委員会を11回開催）。

(2) 課外活動の活性化

- ・課外活動での目覚ましい成績（地区大会以上出場の部活動数12部、その内全国大会出場の部活動数8部）。
- ・部活動参加の推進（全生徒における部活動の参加率69%）。
- ・学校法人日本体育大学との包括連携協定に基づき、浜松日体高等学校と部活動交流試合を実施。



(3) 学習成果の向上

- ・2017年度大学入学試験において74名（特進49名、一般12名、SS8名、国際2名、総合3名）が国公立大学に合格。

(4) 高校生の模範となるマナーの定着

- ・マナーアップ委員会の開催（各部活動から2名を選出し、電車のマナーや登下校時のマナー等の啓発活動を実施）。

2. 「突破力」を育む教育プログラムの開発

(1) キャリア教育プログラムの開発

- ・学年別及びコース別におけるキャリア教育プログラムを開発及び実施（講座制補習、他大学との意見交換会、企業役員による講話、地域施設での体験授業等）。
- ・普通科及び総合学科におけるキャリア教育プログラムを実施。

(2) 探究型学習プログラムの開発

- ・探究型学習プログラムとして「探究基礎」「SS I」「SS II」「サイエンスラボ」「多文化共生」「Gプロジェクトスタディ」「EP」「国際教養」「課題探究」「グローバル概論」を実施（全12件）。
- ・学習成果を発表するコンテストとして「科学三昧」「集まれ理系女子」「ジュニア農芸化学」「科学の甲子園」「マスフェスタ」「日本動物学会」「英語スピーチコンテスト」「SGH 校生徒成果発表会」「クエストカップ」「高校生英語プレゼンコンテスト」「SGH 甲子園」「名城大学国際フォーラム」に参加（全12件）。
- ・「SGH 校生徒成果発表会」で3名がポスター発表。
- ・「SGH 甲子園」で1名が英語口頭発表、2名がポスター発表。

- ・国際クラス 22 名が「高校生英語でプレゼンコンテスト」に参加（ともいき賞 1 グループ、奨励賞 1 グループ）。
- ・国際クラス 44 名が「高校生英語スピーチコンテスト」で発表（入選 1 名）。
- ・国際クラス 32 名が「国際ユース作文コンテスト」に参加（学校奨励賞、入選 1 名）。
- ・SS クラス生徒 2 名が「21 世紀の中高校生による国際科学技術フォーラム」へ参加。
- ・総合学科 1 年生が「2016 POP コンテスト」で奨励賞（1 名）、敢闘賞（2 名）を受賞。
- ・全校生徒を対象に教科にとらわれない学習形態として学習サロンを開講（英語多読、英会話の実践）。
- ・特別進学クラスで土曜サロンを 9 回開催（TOEIC 受験対策、記述問題対策）。
- ・総合学科で想像力豊かな企画が 44 件実施。
- ・外部講師を招いた次世代リーダー育成講座を 4 回開催。
- ・文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業」の中間評価において最高評価を獲得。
- ・グローバルサロンを 7 回開催。
- ・土曜サロンを 9 回開催。

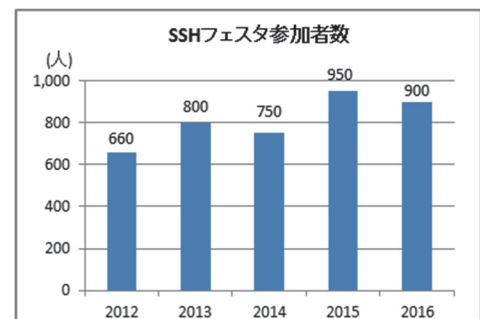
### （3）国際化の推進

- ・海外修学旅行の実施（総合学科：台湾、SS クラス：ハワイ、国際クラス：ニュージーランド）。
- ・附属高等学校とプリンセス・チュラボーン・サイエンス・ハイスクール・トラン校（タイ）と学術交流協定を締結。
- ・「SSH 東海フェスタ 2016」を開催。プリンセスチュラボーンカレッジ・トラン校（タイ）が参加。
- ・オーストラリアにて全校生徒を対象にした語学研修を実施（30 名）。
- ・SSH 海外研修としてタイで開催の研究発表会に参加。
- ・台湾（臺北市立中崙高級中学、国立内壠高級中学）、オーストラリア（フレッシュウォータークリスチャンカレッジ）、アメリカ（ヒルトップ高校）から生徒及び教員が来校。
- ・IIBC エッセイコンテストへ 70 名が参加（学校奨励賞）。
- ・SGH グローバルレクチャーとして、ニュージーランドの大学・企業・行政機関で研修を実施。
- ・SGH グローバルフィールドワークとして、台湾の大学・企業等で研修を実施。

## 3. 外部との連携体制の充実

### （1）高大連携プログラムの開発

- ・SSH 東海フェスタ 2016 における連携。
- ・Meijo Global Festa 2016 における連携。
- ・「高大連携講座」を 5 回実施。
- ・国際クラスにて、名城大学との連携授業を実施（全 9 回）。
- ・国際クラスにて、南山大学との連携授業を実施（全 7 回）。
- ・立教大学 50 周年記念エッセイコンテストへ 12 名が参加（入選：1 名）。



(2) 外部団体連携プログラムの開発

- ・新聞切抜き作品コンクールへ 273 名が参加 (佳作 : 1 名、努力賞 : 32 名)。
- ・国際クラスにて、国際理解教育団体 T.W.O と連携 (全 7 回)。
- ・国際クラスの課題研究活動に企業・行政・各種団体等と連携 (全 50 回)。

## 【研究の充実】の分野

《大学》

### 1. 独創的研究の推進と研究成果の社会への発信

(1) 自由な発想に基づく、独創的な研究の推進

- ・総合研究所の下に、新たに「ものづくりマネジメントシステム研究センター」「未来型住環境を創造する研究センター」「資源循環システム構築国際研究センター」を設置。
- ・5つの学内助成事業で 57 件 60,960 千円を助成。
- ・科学研究費助成事業へ 230 件申請し、130 件 (256,700 千円) が採択。
- ・受託性大型プロジェクトとして 31 件 (220,354 千円) が採択。
- ・受託研究費と共同研究費を計 97 件 (93,871 千円) 受納。
- ・大学院生研究助成及び国際的調査・研究補助へ 141 件の申請があり、58 件を採択。

(2) 研究成果の積極的な発信

- ・テクノフロンティア、イノベーションジャパン、シーテックジャパン、ナノテク等、計 16 回の展示会へ出展。
- ・研究シーズ集を発行 (シーズシート数 109 件)。
- ・アジア研究センター10周年を記念し、八事キャンパスで「第7回名古屋・南京・瀋陽薬学学術シンポジウム (名古屋市立大学大学院薬学研究科と岐阜薬科大学との共催)」を開催。
- ・薬学部が 2015 年度海外臨床薬学研修報告会を開催。

### 2. 国際的な研究拠点の育成と強化

(1) 国際的研究拠点づくり

- ・「青色 LED を起点とした新規光デバイス開発による名城大ブランド構築プログラム」が、平成 28 年度私立大学研究ブランディング事業 (世界展開型) に選定 (事業期間 : 5 年、補助金予定額 : 130,000 千円)。青色 LED の技術の発展を目指す研究拠点として「光デバイス研究センター」を設置。
- ・LED 共同研究センターにおいて、8 社との共同研究を実施。

## 【社会貢献】の分野

《大学》

### 1. 地域支援の充実

(1) 地域と一体となったコミュニティづくり

- ・刈谷市教育委員会と連携し、大学連携講座を 2 講座開講し、57 名が受講。
- ・愛知県日進市と連携し、大学連携講座を 1 講座開講し、40 名が受講。
- ・名古屋市東区と連携し、大学連携講座を 2 講座開講し、135 名が受講。

- ・名古屋市東区及び岐阜県可児市と連携し、「社会連携ゾーン shake」のオープニングイベント「MEET UP 産官学のつながりを生み出す交流会&活動紹介」を開催。企業・行政・NPO・学生・教職員が活動紹介をし、700名以上が参加。
- ・名城大学と日進市による提案型連携事業として、薬学部による科学実験出前授業を開催。
- ・ナゴヤドーム前キャンパス開設を記念した「新キャンパス開放 Day」を実施（来場者数：2,900名）。
- ・ナゴヤドーム前キャンパスにカフェレストラン「MU GARDEN TERRACE」を開設。食を通じた「学び」や「集い」をテーマとしたイベント、セミナーを118件開催。
- ・ナゴヤドーム前キャンパスでボランティアに参加した学生による食と観光のPRイベント「MU 気仙沼レストラン」を開催。
- ・本学学生が、学生将棋団体対抗戦及び学生王将戦において団体・個人ともに優勝したことを記念し、小・中・高生を対象とした「第1回名城大学杯将棋大会」を開催。
- ・世界的なエナジードリンクメーカーのRed Bullと連携し、ブレイクダンスの世界大会「Red Bull BC ONE CAMP」をナゴヤドーム前キャンパスで開催。異文化交流の一環として、学生がボランティアとして運営に協力。
- ・ボランティア協議会の地域防犯活動に対して愛知県天白警察署から感謝状を拝受。
- ・東日本大震災災害復興支援義援金活動及びボランティア活動を継続して実施。
- ・4月に発生した熊本地震、10月に発生した鳥取地震に対して、ボランティア協議会の学生が学内で募金活動を実施し、日本赤十字社を通じて寄附。
- ・「熊本地震復興支援プロジェクト」として熊本県阿蘇郡西原村にてボランティア活動を実施（学生40名が参加）。
- ・天白区役所等との連携によるボランティアの展開（年末特別警戒パトロールや清掃活動等の各種行事に参加、「天白区民まつり」においてブース出展及び運営補助を実施、天白川辺の学校と連携し、天白小学校の生き物観察体験学習の運営補助を実施）。
- ・名古屋市認知症相談支援センターと連携し、はいかい高齢者おかえり支援事業模擬訓練にボランティア協議会の学生が参加。
- ・ボランティア協議会による各種行事の実施（「ボランティア協議会」の活動（クリーンアップ大作戦、学内環境パトロール、地域防犯パトロール、大坪小学校でのふれあいあいさつ運動、災害復興ボランティア、社会福祉施設あしたの丘訪問ボランティア、中部盲導犬協会と連携した盲導犬ボランティア他）を積極的に支援）。
- ・なごや生物多様性センターの各種イベントにボランティア協議会の学生が参加。
- ・福祉スポーツセンターで車いすバスケットボールチームの練習・試合運営補助にボランティア協議会の学生が参加。
- ・ナゴヤドーム前キャンパス内で東区銘板「市電が走っていた頃の矢田南／昭和40年代の風景」を設置し、除幕式を開催。

## 2. 社会人の学び直しの機会の提供

- ・ナゴヤドーム前キャンパスに、コミュニティスペース「社会連携ゾーン shake」を開設。大学・企業・行政の垣根を超えたイベントやワークショップ等を開催（イベント開催件数238件、shakeパートナーシップ団体登録34件）。

(1) 生涯学習支援プログラムの開発

- ・学部・研究科等を中心に市民参加型公開講座を 12 講座開講、9,377 名が受講。
- ・出前講義として、自治体等へ 22 件実施。
- ・薬学部が中学生向けに「ひらめき☆ときめきサイエンス講座（日本学術振興会共催）」を開催（中学生 21 名、保護者 17 名が参加）。
- ・教員免許状更新講習 12 講座（64 件）を開講し、323 名が受講。
- ・地域貢献の一環として、教職員が行政に係る委員等の委嘱件数が 318 件。

《附属高等学校》

**1. 地域資源の活用による教育の充実**

(1) 地域連携プログラムと地域活動の充実

- ・総合学科 3 年 36 名と中村区新富町内会の関係者が参加し「収穫祭」を開催。

**2. 社会貢献の促進**

(1) 地域の方々を支える中村キャンパスの活用

- ・地域の避難場所に指定されている附属高等学校で地域住民、新富町保育園の園児や職員が参加して避難訓練を実施。

(2) 貢献活動

- ・SSH 関連フィールドワークを 16 回実施（庄内川クリーンアップ大作戦、中村児童館と協力しての移動児童館、三河湾大感謝祭等）。
- ・SGH 関連フィールドワークを 47 回実施（有松関連企業、JICA、愛知県庁、一宮繊維関連企業等）。
- ・ダンス部が中村警察署関係のイベントへ参加。
- ・吹奏楽部が岩手県陸前高田市、釜石市、宮古市等で交流演奏ツアーを実施。県立宮古高校と合同演奏を実施。
- ・吹奏楽部が介護老人保健施設を訪問。
- ・通学経路だけでなく、河川敷まで範囲を拡大し、5 回の校外清掃を実施。

**【組織・経営改革】の分野**

《大学》

**1. 組織の活性化**

- ・愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科の指定管理法人に選定。

(1) 社会のニーズを踏まえた大学院・学部・学科の改組

- ・2017 年度より理工学研究科に「応用化学専攻」「メカトロニクス工学専攻」開設、及び「機械システム工学専攻」を「機械工学専攻」に、「建設システム工学専攻」を「社会基盤デザイン工学専攻」とする名称変更を実施。
- ・教育の質的向上等を目的に 2017 年度より入学定員及び収容人数を変更。

## (2) 組織内コミュニケーションの活性化

- ・MS-26 戦略プランに基づいた各部署の事業計画について、常勤理事との意見交換、中間自己評価および期末自己評価を経て、MS-26 推進室で全部署の進捗状況を集約し、常勤理事会に報告。
- ・学内サミット「高大接続における入試のあり方」を開催。
- ・本学における改革の実現に向け、学内外の情報収集、調査・分析を前提とした総合的な企画・立案、新規事業の支援等を行うため、学長室の設置について検討、2017年度から設置。
- ・本学が地域社会の活性化に貢献するとともに、社会との連携を通して本大学の教育研究の活性化及び深化を図ることを目的として、社会連携センターの設置について検討、2017年度から設置。
- ・障害者差別解消法に基づき、障がい学生への差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供が実施できる体制の構築を目的として、障がい学生支援センターの設置について検討、2017年度から設置。
- ・大規模地震等の自然災害時に迅速かつ確かな対応をすることを目的とした防災訓練をナゴヤドーム前キャンパスで実施し、教職員及び全学生が参加。
- ・災害時等を想定した学生及び教職員の安否確認に係るシステムの導入について検討。2017年度より運用開始予定。
- ・天白キャンパスで教職員を対象に危険物施設における発災を想定した実地訓練を実施。
- ・教職員向け「海外留学健康危機管理セミナー」「学生の海外派遣に伴う危機管理セミナー」を開催。
- ・可児キャンパスでキャンパス移転前の最終公開講座「都市情報学部のこれまでとこれから」を開催し、400名が参加。

## 2. ブランド力の向上

## (1) 学内外への広報の積極的展開

- ・「青色LEDを起点とした新規光デバイス開発による名城大ブランド構築プログラム」が、平成28年度私立大学研究ブランディング事業（世界展開型）に選定。同事業の一環として「世界を変え続けるLED 安心・安全な社会の実現に寄与する新規光デバイスの開発」シンポジウムを開催。
- ・ノーベル賞受賞を記念した「赤崎・天野ノーベル賞記念展示室」を設置。
- ・ノーベル物理学賞受賞記念事業「学びを楽しもう」として、小学生を対象とした工作教室及び講演会を開催。
- ・社会に向けて積極的に信頼度の高い情報発信を行うことを目的とした広報ガイドラインを策定。

## (2) 卒業生及び父母との連携強化

- ・小・中・高校で教員として活躍する卒業生と現役学生とが交流を深める「第7回卒業生教員交流会」を開催し、卒業生146名が参加。池上彰教授が講演。
- ・「第9回卒業30周年ホームカミングデー」を開催し、1986年度卒業生167名が参加。
- ・卒業した同窓生が再会し懇親を深める機会として第5回「スペシャルホームカミングデー」を開催し、1969年3月～1970年3月に卒業した卒業生116名が参加。
- ・全国37支部において校友会支部総会及び愛知県内卒業生の会の総会（6回）が開催され、理事長、学長、学部長等が出席。

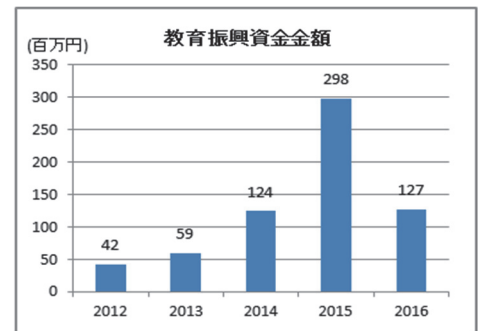
### 3. ビジョンの実現を支える基盤整備

#### (1) 学生の主体的な学びを支援する環境整備

- ・ナゴヤドーム前キャンパス開設。
- ・2017年3月に人間学部・人間学研究科、ならびに都市情報学部・都市情報学研究科がナゴヤドーム前キャンパスへ移転。
- ・ナゴヤドーム前キャンパスで南館竣工。東西南北館すべてが完成。
- ・正門アプローチ整備工事を2016年6月に着工、2017年3月に竣工。
- ・新校友会館が2016年5月に竣工。

#### (2) 財源の多様化の促進

- ・「名城大学教育振興資金」として1,057件、126,681,892円の寄附金を受納（開学90周年募金を含む）。
- ・開学90周年募金が終了。寄附金総額546,859,996円。
- ・特別補助金221,311千円を獲得（法人全体の補助金は2,288,117千円）。
- ・文部科学省の補助金事業である「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3「産業界・他大学との連携」に選定。



#### 《附属高等学校》

### 1. ビジョンの実現を支える基盤整備

#### (1) 組織・体制の整備

- ・高校内規の全面的な見直しを継続的に整備。

#### (2) 環境整備

- ・施設設備計画検討委員会WGが県外を含む他校視察を10回、WG会議を2回実施。

#### (3) 財源の多様化の促進

- ・寄付金として生徒育成基金3,214,470円を受納し、昨年度比424,470円の増額。
- ・補助金594,884千円を獲得し、昨年度比8,276千円の減額。
- ・PTAより教育環境充実指定寄付として55,000千円を法人に寄付。

### 2. ブランド力の向上

#### (1) 在校生・卒業生の帰属感

- ・同窓会名簿の充実。文化祭時に展示見学へ参加する卒業生が増加。
- ・ダンス部、チアリーディング部、放送部（計60名）が記念総会へ参加。記念総会参加者数730名。
- ・同窓生役員、学内同窓生、部活動OB会議等を5回実施。



### Ⅲ 事業ごとの主な支出状況

主な事業ごとの支出は以下の通りです。

2016年度			金額
分野	事業内容		(百万円)
	目的	具体的内容	
(1) 教育活動			3,691
	教育一般		1,242
		実験実習費	884
		特別支援	250
		院高度化費(教育)等	108
	特別教育		94
		JABEE	37
		入学前教育(MEC)	23
		教職実習関係等	34
	教育・学生支援		1,030
		奨学金	291
		国際化計画2013	154
		クラブ活動(部活動)援助等	585
	教育整備・地域連携		1,267
		メィネット・情報処理教室運営	724
		図書購入	145
		教務系システム等	398
	MS-26・事業計画(教育活動)		58
		(MS)教育の充実	58
(2) 研究活動			1,138
	研究一般		1,040
		教員研究費	220
		受託性大型プロジェクト	200
		研究奨励助成等	620
	研究支援・外部連携		98
		LED共同研究センター運営	42
		特許権	17
		国外学会旅費補助等	39
(3) 経営活動			25,147
	人材の確保・育成		13,284
		本務教員雇用	8,269
		本務職員雇用	2,759
		退職金等	2,256
	学生生徒の確保		567
		入学試験実施	223
		学生(生徒)募集	344
	法人運営		418
		庶務経費	156
		広報	93
		安全対策等	169
	投資活動		6,414
		ドーム前キャンパス整備	3,740
		施設ランニングコスト	1,891
		再開発事業費等	783
	財務活動		4,464
		有価証券購入	2,495
		退職給与引当資産積立	1,270
		前払金等	699
	合計		29,976

※金額は資金収支計算書(22ページ)のうち、MS-26と関連付いた支出項目を抽出したものです。

## 第2章 法人

### I 立学の精神

穩健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する

### II 沿革

名城大学（以下「大学」）は、1926（大正15）年5月に、創設者である田中壽一氏が開設した名古屋高等理工科講習所をその前身として始まり、2016（平成28）年に開学90周年を迎えました。同年4月にはナゴヤドーム前キャンパスを開設、外国語学部国際英語学科を設置し、着実に「広く社会に開かれた文理融合型総合大学」の実現に向けて取り組んでいます。

名城大学附属高等学校（以下、「附属高校」）は、その礎を1933（昭和8）年3月に設立認可された名古屋高等理工科学校の中等科に置き、その後、中村区に校地を移し、名古屋文理高等学校を経て、現在の名城大学附属高等学校として改称しました。1999（平成11）年4月には、総合学科の設置、男女共学化を実施し、現在の附属高校に至っています。

### III 役員・評議員等の構成（2017（平成29）年3月31日現在）

#### (1) 役員

職名	氏名	現職
理事長	小笠原日出男	
常勤理事	吉久光一	学長
常勤理事	加藤幹彦	
常勤理事	野田泰弘	
常勤理事	野口光宣	副学長
常勤理事	久保全弘	副学長
常勤理事	岩崎政次	附属高等学校長
常勤理事	武藤正美	経営本部長
理事	浜本英嗣	日本ガイシ株式会社代表取締役会長
理事	後藤武夫	弁護士
理事	神田真秋	愛知芸術文化センター総長
理事	安田善次	トヨタ自動車東日本株式会社名誉顧問
理事	一柳鏊	株式会社一柳葬具總本店代表取締役社長
理事	森誠	富士精工株式会社取締役社長
理事	小出宣昭	株式会社中日新聞社代表取締役社長
常勤監事	中井剛	
常勤監事	長沼嗣雄	
監事	稲越千束	公認会計士

#### (2) 評議員

氏名				
大野栄治	金子恵一	大武貞光	上林晃	田代稔
松橋正明	高橋光好	鬼頭一隆	阪納康之	岩崎征一
梶田正勝	岩室隆	奥田英司	丹下富博	水野昌樹
武村學	吉久光一	伊川正樹	瀬川新一	山本雄吾
加鳥裕明	小原章裕	平松正行	木下栄蔵	船田秀佳
アーナダ・クマール	岩崎政次	小笠原日出男	浜本英嗣	加藤千磨
宮嶋和男	岡部弘	宮池克人	入倉憲二	山田治基
佐伯卓	杉浦康夫	吉田修	森岡仙太	今村裕

**(3) 学校評議員（附属高等学校）**

氏名	現職
森岡 仙太	愛知県 副知事
伊藤 元行	株式会社トーエネック 顧問
永田 浩三	国立大学法人名古屋大学大学院医学系研究科 教授
武村 學	名城大学附属高等学校同窓会会長
奥村 佳代子	名城大学附属高等学校PTA顧問

**IV 教職員数（2016年5月1日現在）**

専任職員	大学	附属高校
教育職員	491名	93名
事務職員等	305名	9名

**V 所在地****■天白キャンパス**

- 法人・大学本部、法学部、経営学部、経済学部、理工学部、農学部、人間学部、大学院法学研究科、経営学研究科、経済学研究科、理工学研究科、農学研究科、人間学研究科、総合学術研究科、大学・学校づくり研究科、法務研究科
- 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口 1-501

**■八事キャンパス**

- 薬学部、大学院薬学研究科
- 〒468-8503 名古屋市天白区八事山 150

**■可児キャンパス**

- 都市情報学部、大学院都市情報学研究科
- 〒509-0261 岐阜県可児市虹ヶ丘 4-3-3

**■ナゴヤドーム前キャンパス**

- 外国語学部
- 〒461-8534 名古屋市東区矢田南 4-102-9

**■中村キャンパス**

- 附属高等学校（普通科、総合学科）
- 〒453-0031 名古屋市中村区新富町 1-3-16

**■春日井（鷹来）キャンパス**

- 農学部附属農場
- 〒486-0804 春日井市鷹来町字菱ヶ池 4311-2

**■日進キャンパス**

- 日進総合グラウンド
- 〒470-0102 日進市藤島町長塚 75

**■瀬戸校地**

- 演習林
- 瀬戸市三沢町 1-272

**VI 学校法人名城大学の基本戦略の推進**

学校法人名城大学では、2004（平成16）年12月に「学校法人名城大学における基本戦略について」MS-15（Meijo Strategy-2015）を策定しました。

MS-15では、大学、附属高校それぞれに柱（戦略ドメイン）と具体的行動目標を設定し、学生、教職員、卒業生、父母といったステイクホルダーの共通理解の下で教育・研究の改革に取り組んできました。

2015（平成27）年度からは、開学100周年にあたる2026年を目標年とする新たな戦略プランMS-26（Meijo Strategy-2026）がスタートしました。MS-26では、「生涯学びを楽しむ（Enjoy Learning for Life）」という価値観の下、開学100周年に向けて、大学では、「多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる」、附属高校では、「『多様な経験』を創り出す『挑戦する学校』の実現に向けて取り組んでいきます。

## 第3章 設置学校

### I 大学

MS-26 を背景として、大学におけるビジョン等を以下のように定めています。

**「大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観」**

**生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」**

Vision：多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく「学びのコミュニティ」を創り広げる

Mission：(教育ミッション) 主体的に学び続ける「実行力のある教養人」を育てる  
(研究ミッション) 「学問の探求と理論の応用」を通して、成果を教育と社会に還元する  
(社会貢献ミッション) 社会との「人的交流」を通して、地域の活性化に貢献する

1. 2017年度大学入試で、41,602人の志願者数を確保。〔前年度比〕3,288人増
  - ・受験者数：40,203人 〔前年度比〕3,305人増
  - ・合格者数：12,554人 〔前年度比〕10人増
2. 学生数：大学院 (2015) 618人→(2016) 619人 (1人増)  
 学部 (2015) 14,804人→(2016) 14,793人 (11人減)
3. 女子学生比率：(2015) 27.3%→(2016) 28.7%
4. 外国人留学生数：(2015) 258人→(2016) 223人 (35人減)  
 [2016年度出身国等比率：中国 82.5%、中国(台湾) 5.4%、ベトナム 2.2%、インドネシア 2.2%、ミャンマー2.2%]
5. 修了者・卒業者数：大学院 (2015) 233人→(2016) 271人 (38人増)  
 学部 (2015) 3,122人→(2016) 3,238人 (116人増)
6. 学位授与数：大学院 (2015) 博士 18→(2016) 博士 19  
 修士 207→ 修士 246  
 専門職 9→ 専門職 7

### II 附属高等学校

MS-26 を背景として、附属高等学校におけるビジョン等を以下のように定めています。

**「大学・高校に関わる全ての人達と共有したい価値観」**

**生涯学びを楽しむ・・・「Enjoy Learning for Life」**

Vision：「多様な経験」を創りだす「挑戦する学校」

Mission：(教育ミッション) 「主体的に学ぶ力」と「突破力」を備えた生徒を育成する  
(社会貢献ミッション) 「人的交流」や「学習活動」を通して、社会貢献を果たす

1. 2017年度附属高校入試で、7,535人の志願者数を確保。〔前年度比〕210人減
2. 生徒数：(2015) 1,918人→(2016) 1,890人 (28人減)
3. 女子生徒比率：(2015) 44.4%→(2016) 45.9%
4. 卒業者数：(2015) 610人→(2016) 656人 (46人増)

### Ⅲ 2016年度の状況

#### 1. 入学定員及び学生数（2016年5月1日現在）

##### ■ 大学院

(単位：人)

研究科	修士課程・博士前期課程					博士課程・博士後期課程・専門職学位課程				
	入学定員	入学者数	収容定員	学生数	内(女子)	入学定員	入学者数	収容定員	学生数	内(女子)
法学	15	2	30	8	(2)	8	1	24	4	(2)
経営学	20	13	40	45	(30)	3	0	9	4	(1)
経済学	10	10	20	11	(4)	3	1	9	3	(1)
理工学	170	179	340	382	(27)	22	5	66	23	(2)
農学	20	16	40	40	(20)	5	0	15	2	(0)
薬学(4年制)	—	—	—	—	—	4	8	16	28	(6)
都市情報学	8	6	16	14	(4)	4	0	12	3	(0)
人間学	8	1	16	3	(1)	—	—	—	—	—
総合学術	8	1	16	3	(0)	4	1	12	6	(2)
大学・学校づくり	—	—	10	5	(2)	—	—	—	—	—
大学院合計	259	228	528	511	(90)	53	16	163	73	(14)
法務(専門職)	—	—	—	—	—	25	8	90	35	(9)

※秋季入学者は除く

##### ■ 学部

(単位：人)

学 部	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数	内(女子)
法学部	400	440	1,990	2,219	(488)
経営学部	285	342	1,140	1,338	(484)
経済学部	285	328	1,140	1,322	(260)
理工学部	1,105	1,157	4,420	4,978	(617)
農学部	300	317	1,200	1,351	(688)
薬学部	250	269	1,500	1,623	(1,035)
都市情報学部	200	237	800	910	(123)
人間学部	200	209	800	914	(530)
外国語学部	130	138	130	138	(84)
学部合計	3,155	3,437	13,120	14,793	(4,309)

##### ■ 外国人留学生

国籍別在籍者数 (単位：人)

国 名	学生数	内(女子)
中国	184	(80)
中国(台湾)	12	(9)
ベトナム	5	(3)
インドネシア	5	(2)
ミャンマー	5	(5)
ネパール	4	(1)
韓国	4	(3)
パキスタン	1	(0)
マレーシア	1	(0)
フランス	1	(1)
モロッコ	1	(0)
合 計	223	(104)

(注) 研究生、科目等履修生含む。

##### ■ 大学総計

(単位：人)

大学・大学院	学生数	内(女子)
合 計	15,412	(4,422)

##### ■ 附属高等学校

(単位：人)

学 科	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数	内(女子)
普通科	480	450	1,440	1,438	(663)
総合学科	160	143	480	452	(204)
合 計	640	593	1,920	1,890	(867)

## 2. 修了者・卒業生数

## ■ 大学院

(単位:人)

研究科	修士課程・博士前期課程			博士課程・博士後期課程・専門職学位課程		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
法学	3	1	4	0	1	1
経営学	6	18	24	0	1	1
経済学	0	1	1	0	1	1
理工学	170	12	182	7	0	7
農学	11	11	22	1	0	1
薬学	—	—	—	4	3	7
都市情報学	5	3	8	0	0	0
人間学	0	0	0	—	—	—
総合学術	0	0	0	0	0	0
大学・学校づくり	3	2	5	—	—	—
大学院合計	198	48	246	12	6	18
法務(専門職)	—	—	—	6	1	7

## ■ 学部

(単位:人)

学部	男子	女子	合計
法学部	397	111	508
経営学部	199	98	297
経済学部	242	57	299
理工学部	1,010	124	1,134
農学部	151	183	334
薬学部	81	165	246
都市情報学部	167	21	188
人間学部	104	128	232
合計	2,351	887	3,238

## ■ 附属高等学校

(単位:人)

学科	男子	女子	合計
普通科	296	202	498
総合学科	77	81	158
合計	373	283	656

## 3. 就職状況

## ■ 学部

(単位:人)

学部	就職希望者数(A)	就職者数(B)	就職率(B/A)
法学部	457	454	99.3%
経営学部	272	272	100.0%
経済学部	281	280	99.6%
理工学部	895	895	100.0%
農学部	288	288	100.0%
薬学部	232	232	100.0%
都市情報学部	171	168	98.2%
人間学部	202	201	99.5%
合計	2,798	2,790	99.7%

## IV 財務の概要

### 1. 事業活動収支計算書

教育活動収入は、入学検定料、受託事業収入、雑収入（退職金財団交付金）等が増加しましたが、学生生徒等納付金、国庫補助金等が減少したことにより、昨年度に比べて109百万円減額の24,374百万円となりました。

教育活動支出は、ナゴヤドーム前キャンパス運営開始による人件費並びに経費の増加、ナゴヤドーム前キャンパスの減価償却の開始により昨年度に比べ259百万円増額の23,403百万円となりました。

基本金組入額は、ナゴヤドーム前キャンパスの完成を迎え基本金の組み入れが終了したことから、昨年度に比べ1,860百万円減額の3,896百万円となりました。

事業活動収支差額（注1）は昨年度に比べ805百万円減の552百万円となり、事業活動収支差額比率（注2）は昨年度比3.16%ダウンの2.22%となりました。

（教育活動収支の部）

（単位：百万円）

科 目	2016年度	2015年度	増 減
学生生徒等納付金	19,083	19,353	△270
手数料	1,410	1,316	94
寄付金	130	125	5
経常費補助金	2,250	2,374	△124
付随事業収入	562	484	78
雑収入	939	831	108
<b>教育活動収入合計(①)</b>	<b>24,374</b>	<b>24,483</b>	<b>△109</b>
人件費	12,725	12,506	219
教育研究経費	9,254	8,967	287
（内減価償却額）	(2,964)	(2,637)	(327)
管理経費	1,424	1,671	△247
（内減価償却額）	(77)	(86)	(△9)
<b>教育活動支出合計(②)</b>	<b>23,403</b>	<b>23,144</b>	<b>259</b>
<b>教育活動収支差額</b>	<b>971</b>	<b>1,339</b>	<b>△368</b>

学部志願者数の増加。

私立大学等経常費補助金の減少。

受託事業収入の増加。

退職金財団交付金の増加。

新学部運営開始に伴う教員人件費の増加。

新キャンパス運営開始に伴う経費の増加。

新キャンパス設置建物の減価償却開始による増加。

（教育活動外収支の部）

科 目	2016年度	2015年度	増 減
受取利息・配当金	186	227	△41
<b>教育活動外収入合計(③)</b>	<b>186</b>	<b>227</b>	<b>△41</b>
借入金等利息	0	0	0
<b>教育活動外支出合計(④)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>教育活動外収支差額</b>	<b>186</b>	<b>227</b>	<b>△41</b>

債券等運用額の減少。

（特別収支の部）

科 目	2016年度	2015年度	増 減
資産売却差額	0	14	△14
その他の特別収入	273	516	△243
<b>特別収入合計(⑤)</b>	<b>273</b>	<b>530</b>	<b>△257</b>
資産処分差額	311	227	84
その他の特別支出	567	512	55
<b>特別支出合計(⑥)</b>	<b>878</b>	<b>739</b>	<b>139</b>
<b>特別収支差額</b>	<b>△605</b>	<b>△209</b>	<b>△396</b>

建物取り壊しによる増加。

基本金組入前当年度収支差額	552	1,357	△805
基本金組入額合計	△3,896	△5,756	1,860
当年度収支差額	△3,344	△4,399	1,055
前年度繰越収支差額	△19,219	△14,820	△4,399
翌年度繰越収支差額	△22,563	△19,219	△3,344

大規模校舎建設事業（ドーム前キャンパス・春日井キャンパス建設）終了及び旧建物取り壊しに伴う減少。

（注1） [事業活動収支差額] = [事業活動収入(①+③+⑤)] - [事業活動支出(②+④+⑥)]

（注2） [事業活動収支差額比率] = [事業活動収支差額] ÷ [事業活動収入] × 100

## 2. 貸借対照表

2016年度は、施設建設に伴い特定資産の取り崩しを行ったことから、固定資産が減少したものの、現金預金の増加により、資産の部は増加し、財務状況は安定的に推移しています。

資産の部 (単位：百万円)

科 目	2016年度末	2015年度末	増 減
固定資産	93,474	93,800	△326
有形固定資産	77,675	75,975	1,700
特定資産	10,886	13,167	△2,281
その他の固定資産	4,913	4,658	255
流動資産	17,759	16,043	1,716
合 計	111,233	109,843	1,390

ナゴヤドーム前キャンパス建設等に伴う特定資産の取り崩しにより、特定資産から有形固定資産及びその他の固定資産に組換え。

有価証券の償還に伴う現金預金の増加。

負債の部 純資産の部

科 目	2016年度末	2015年度末	増 減
負債の部合計	13,904	13,066	838
固定負債	8,612	8,536	76
流動負債	5,292	4,530	762
純資産の部合計	97,329	96,777	552
基本金	119,892	115,996	3,896
繰越収支差額	△22,563	△19,219	△3,344
合 計	111,233	109,843	1,390

短期借入金金の増加。

## 3. 資金収支計算書

翌年度繰越支払資金は特定資産取崩や有価証券の償還により、昨年度に比べ1,841百万円の増加となりました。

(収入の部)

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2015年度	増 減
学生生徒等納付金収入	19,083	19,353	△270
手数料収入	1,410	1,316	94
寄付金収入	241	409	△168
補助金収入	2,288	2,516	△228
資産売却収入	2,296	38	2,258
受取利息・配当金収入	186	227	△41
付随・収益事業、雑収入	1,502	1,314	188
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	3,484	3,315	169
その他・資金収入調整勘定	373	922	△549
当年度資金収入合計	30,863	29,410	1,453
前年度繰越支払資金	13,920	13,780	140
収入の部合計	44,783	43,190	1,593

(支出の部)

科 目	2016年度	2015年度	増 減
人件費支出	12,864	12,638	226
教育研究経費支出	6,283	6,327	△44
管理経費支出	1,398	1,584	△186
借入金等利息・返済支出	84	116	△32
施設・設備関係支出	4,928	7,417	△2,489
資産運用支出	3,822	1,204	2,618
その他・資金支出調整勘定	△357	△16	△341
当年度資金支出合計	29,022	29,270	△248
翌年度繰越支払資金	15,761	13,920	1,841
支出の部合計	44,783	43,190	1,593

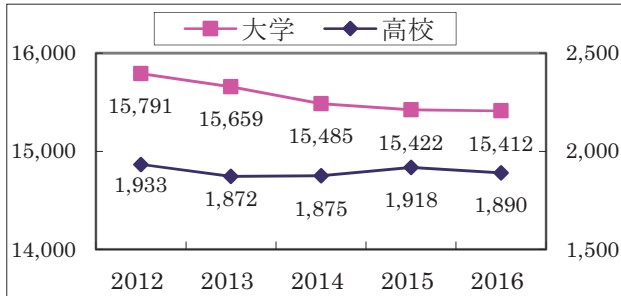


4. 基礎数値と主な財務指標

<基礎数値> (単位:人)

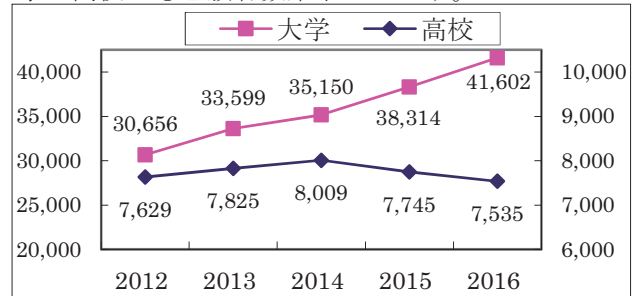
(1) 学生数 (大学/高校)

大学学生数は、私学で中部圏随一の規模を誇ります。



(2) 志願者数 (大学 [学部]/高校)

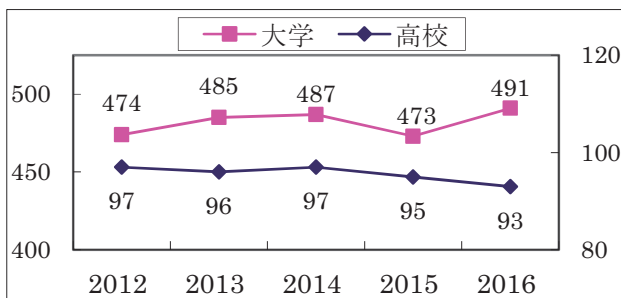
大学志願者数は年々増加し、4万1600人を超え、大学・高校とも志願者数県下No.1です。



(3) 専任教員数 (大学/高校)

大学は、外国語学部開設に伴い教員数を増やし、教育充実を推進しています。

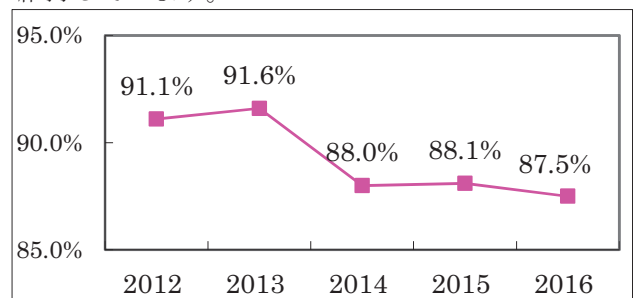
(大学:特任助手を除く・高校:実習教諭除く)



<主な財務指標>

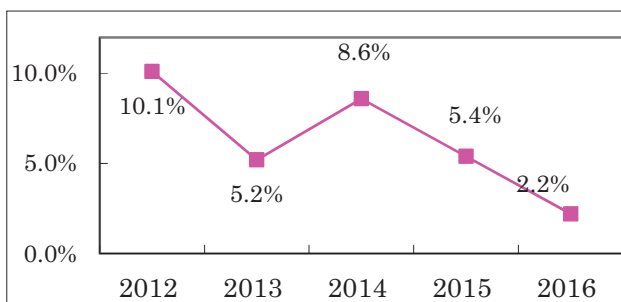
(1) 純資産構成比率 (純資産/総資金)

事業団融資の影響により外部負債が増加した結果、昨年度以降数値は悪化していますが、全国平均以上を維持しています。



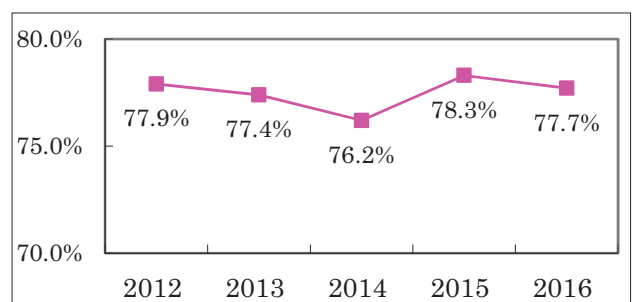
(2) 事業活動収支差額比率 (事業活動収支差額/事業活動収入)

ナゴヤドーム前キャンパス開設に伴う諸経費の増加や、教員数の充実等により、悪化しました。



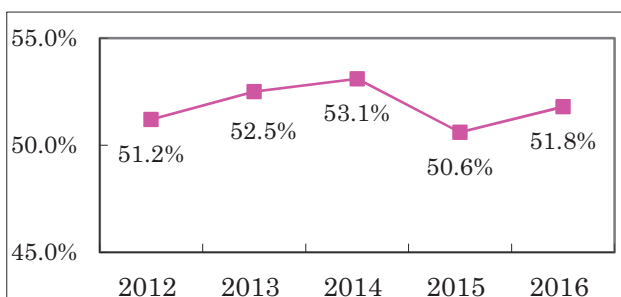
(3) 学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/経常収入)

納付金以外の収入多様化が課題です。



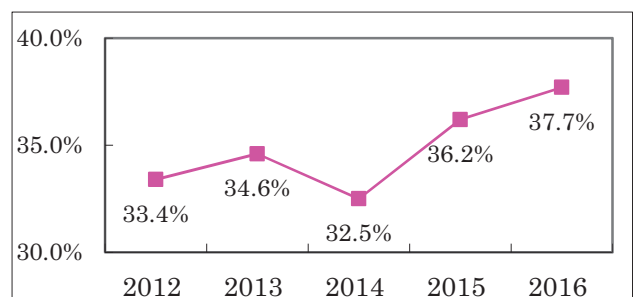
(4) 人件費比率 (人件費/経常収入)

教員数増による影響で人件費比率が若干高くなりました。



(5) 教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)

教育研究活動への支出は安定的に確保しています。



## 用語集

## 【3 ポリシー】

「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）のこと。

## ＜ディプロマ・ポリシー＞

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるもの。

## ＜カリキュラム・ポリシー＞

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

## ＜アドミッション・ポリシー＞

各大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の3要素」※についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

※（1）知識・技能、（2）思考力・判断力・表現力等の能力、（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

## 【ICT (Information and Communication Technology)】

情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。日本では同様の言葉としてIT(Information Technology：情報技術)の方が普及しているが、国際的にはICTの方が通りがよい。

## 【FD (Faculty Development)】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催等を挙げることができる。なお、大学設置基準等においては、こうした意味でのFDの実施を各大学に求めているが、単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。

## 【SD (Staff Development)】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。「スタッフ」に教員を含み、FDを包含する意味としてSDを用いる場合もある。

## 【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

参考) 文部科学省ホームページ

連絡先

 名城大学 経営本部 総合政策部

TEL : (052)838-2005

FAX : (052)832-2317

E-Mail : [oosousei@ccmails.meijo-u.ac.jp](mailto:oosousei@ccmails.meijo-u.ac.jp)

